

# 第1回「市民と市長のふれあいトーク」の内容(要旨)

**と き** 11月1日(木)

**テーマ** 医療と健康づくり

**参加者** 藤木茂篤(津山中央病院長)、松尾直光(津山市医師会長)、村上昌之(津山歯科医師会長)、山口清美(岡山県看護協会津山支部長)、居森英行(津山中央病院企画管理部長)

## 高齢者の通院の足「ごんごバス」の利便性アップを

**参加者** 高齢者の通院手段として「ごんごバス」の果たす役割は非常に大きいので、運行ルートや運行時間など、もう少し利便性がアップすれば、高齢者はもっと助かるのではないのでしょうか。

また、運行ルートや乗り換えなどについて、もっと分かりやすく、お知らせする回数も増やしていただきたいですね。

**市 長** 皆さんの意見をお聞きしながら、少しずつでも利便性が上がるようにしたいですね。市民の皆さんへお知らせする機会も増やしていきたいと思っています。

## 肺炎球菌ワクチン接種費助成に感謝

**参加者** 高齢者肺炎球菌ワクチン接種費の助成が開始され、患者さんから感謝の声を多く聞いています。

助成券を市役所まで取りに行かなければならないのですが、交通手段を持たない高齢者に対しては郵送するなど、何か良い方法はありませんか。

**市 長** 郵送にも対応しています。健康増進課にご相談ください。

## 子ども医療費の充実が定住促進策の柱の一つ

**参加者** 子ども医療費が3割負担から1割負担になり、保護者は大変助かっています。将来の国を背負う世代への施策は、子育て世代の定住促進策となり、大切です。

**市 長** 定住促進策として、子育て支援、雇用対策、交通アクセス等の充実は重要だと考えています。定住を促進し、人口の減少を食い止めたいですね。

## 医療スタッフの不足をどのように解決していくか

**参加者** 現在の津山市の医療体系は、同規模の自治体と比較して充実していると思います。今後も、この体系を維持していくためには、医療スタッフ、特に看護師の確保が重要で、市と医師会が連携して「津山市版ナースバンク」を作る必要があると感じています。

看護師不足を解消するためには、休職中の看護師の掘り起こしが必要で「研修医療センター」など、看護師の復職に役立つ施設を活用することができます。

看護師が現場復帰しやすい環境づくりで一番大切なことは、子どもが小学校に入学するまでの子育て支援だと思います。

**市 長** 津山・英田圏域では医師も不足していると聞いています。

**参加者** 医師も不足しています。対策として、若い医師に津山市に定着してもらうための、住みやすい環境づくりが必要だと思います。

**市 長** 住環境整備などに引き続き力を入れていきたいと考えています。

